（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス東金教室			
○保護者評価実施期間	令和７年　２月　１日	～	令和７年　２月　２２日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	30名	（回答者数）	25名
○従業者評価実施期間	令和７年　３月　１日	～	令和７年　３月　１５日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和７年　３月　２４日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に合わせた支援を行えるよう取り組んでいる。	個々の様子を見て活動内容を工夫している。 運動遊び以外に制作活動や、学習支援を行っている。	職員のスキル向上を図り、個々の特性の理解を高め、適した支援を行う。
2	保護者の不安を聞き、できる限りニーズに寄り添えるよう取り組んでいる。	その都度の保護者の不安を聞き、保育所・学校や他事業所とその子に合った支援の共通認識ができるように連携を取っている。	・学校に放デイの役割を認識して連携が取りやすくなるように連絡会や協議会などに参加している。 ・役所や保育所等に教室の案内を配置させてもらい、児童発達支援の認知度を高めていく。
3	・運動療育を軸に日々の活動の中で切り替えや他児との関わり方を支援している。 ・室内での活動以外にも公園や他教室に行き、いつも同じ環境にならないよう取り組んでいる。	・刺激の排除ではなく、困難な状況になってしまった時に、自分で対処できる力を養えるよう支援を行っている。 ・当教室にはに運動遊具のある他教室に出向き運動支援を行ったり、公園での戸外活動やリトミック等同じ職員、同じ環境、同じ活動にならないように工夫している。	パニックや不穏になってしまっても、その時の児童の感情を受け入れ自分の力で対処できるような支援ができるような職員のスキル向上。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・運動療育を主軸に行っているため、活動がマンネリ化してきて参加意欲が低下してしまう。（放デイ） ・児童発達支援を利用する児童が少ないこと（児発）	・学年が上がるにつれて運動が楽しく感じない利用者増えてしまっている。（放デイ） ・積極的に勧誘を行っていなかった。（児発）	・毎日行う運動療育のため内容や声かけの仕方を都度変えていけるよう職員のスキル向上のため研修等を行っている。（放デイ） ・相談員と連携し新規利用者を積極的に勧誘していく。（児発）
2	・様々な特性を持った利用者がいるため、運動療育でのできる範囲が限られてしまう。（放デイ） ・職員不足のためにやりたい支援が行えない（児発）	・運動レベルを変え対応しているが運動機能的に難しい内容の時が多い。（放デイ） ・人員配置の関係上受け入れが困難な状態になり、小集団すら成立できない。（児発）	・運動内容の難易度や補助の仕方などを学んでいく必要がある。（放デイ） ・他教室と合同で行うことにより、職員不足の解消、小集団の確保を行っている（児発）
3	高学年の利用者が増え活動時間と送迎時間が重なってしまい、一時的に人員が不足してしまう。（放デイ）	職員の確保が難しい。（放デイ）	人員不足解消はすぐには解消しないので、その中でできることを行っていく。（放デイ）